

シ能ハサルモノ多ク若シ幸ニ診斷シ得ルモ局部ノ治療ヲ行ハサレハ治シ難ク又タ手術ニモ特異ノ法アリテ一般ノ外科手術ト大ニ異ナル所アリ之レ婦人病學ノ獨立シテ内科及ヒ外科ノ範圍ヲ脱セシ所以ナリ

産科モ亦ターノ専門學科ニシテ内外科及ヒ婦人科ニ属セサルモノナリルト雖ヒ婦人病ハ分娩後ニ發スルモノ多ク又タ婦人病ノ爲ニ分娩ヲ妨ケラ
ル、モノ少カラス故ニ婦人病専門家ハ多ク産科ヲ兼修スル者ナリ

第二章 婦人病診斷法

婦人病診斷ニ於テ特ニ必要ナルモノハ觸診及ヒ視診ナリ然レヒ打診聽診モ亦ク時トシテ大ニ診斷ヲ助ルコトアレハ決シテ等閑ニ附スヘカラス其他化學的顯微鏡的ノ檢査モ必要ナルコトアリ故ニ内外科ニ於テ用ル一般ノ診斷法ハ婦人病ニ於テモ盡ク欠クヘカラサルモノナリ

婦人病診斷法ノ區別ハ諸家一様ナラス字エストハ手診器械診及ヒ視診ニ分テ邊ガル朱レデル等ハ手診器械診ニ分テ希ウインハ外診内診ニ分テリ予ハ今マ診斷法ヲ説クニ當リ左ノ順序ヲ以テセントス曰ク
腹部診 腹部及ヒ乳房ノ望診

觸診測診 陰部手診 膈内直腸内 消息子診子宮鏡診陰部擴張診及ヒ復雜診ナ
 打診聽診 及ヒ尿道内 既往症現在症ノ問診ヲ終リ此ノ順序ニ由テ詳細ニ
 診察シ而シテ其症狀ヲ合セ以テ斷定スルヲ要ス

第一問診

醫タルモノハ先ツ患婦ヲ望ミ其動作ニ依テ病狀ヲ知ラサルヘカラス例之
 ハ顔面蒼白ニシテ貧血ナル時ハ出血アリシヲ悟リ其患婦老人ナル時ハ
 其出血或ハ瘡腫ニ因スル乎少壯者ナレハ或ハ流産ニ因スルコアラサル乎
 ノ疑ヲ起シ身体疲勞シテ起居ニ疼痛ノ狀アル時ハ或ハ子宮周圍炎若クハ
 卵巢炎ニアラサルヤノ疑ヲ起スカ如シ又ク其患婦ノ起居動作ニ由テ社會
 ノ位置^ヒ等社會^ヒ及ヒ配偶ノ有無等認ルヲ必要ナリ

問診ハ成ルヘク精密ナルヲ要ス然レモ問答中他人ヲ憚リ或ハ然ラサルモ
 口外スルコトヲ耻ルコト多ケレハ醫ハ篤實謹慎ニシテ除々ニ問ヲ始メサル可
 ラス若シ患婦ニソ實ヲ告ケサルコトアラハ其罪ハ醫ニアリテ醫ハ徳望少ナ
 ク醫道ノ蓋與テ究メサルモノト云モ過言ニアラサルヘシ若シ夫レ順序ヲ